地域周産期母子医療センター

●スタッフ（2021年10月1日現在）

センター長　西　洋孝

医師数　産科医　8名
　　小児科医　8名

●診療科の特色・診療対象疾患

地域周産期母子医療センターは産科病棟33床（うちMFICU6床）、NICU12床、および新生児病棟GCU 18床から構成され、令和元年7月より病院7階に開設されました。当センターは産科医師8名、小児科医師8名が緊密な連携をとりつつ周産期に関わる高度な医療を担っています。また、当院は総合病院であり、糖尿病、甲状腺疾患、血液疾患、心血管疾患および悪性腫瘍など主に内科的疾患合併ハイリスク妊婦に対して、当該内科専門医と協力し高度な周産期医療を提供してきました。そして、産科、小児科および小児外科の連携のもと、ハイリスク妊婦からの出生児、低出生体重児や手術が必要な新生児などに対しての集約的な医療体制を整えています。産科診療所やNICUのない病院からのハイリスク妊婦、産科危機的出血または救急処置を要する妊婦の搬送を積極的に受け入れ、地域に貢献しています。主な診療対象疾患は、切迫流早産、多胎妊娠、妊娠高血圧症候群、前置胎盤、糖尿病合併妊娠、妊娠糖尿病、甲状腺疾患合併妊娠、喘息合併妊娠、精神疾患合併妊娠、血液疾患合併妊娠、心血管疾患合併妊娠、悪性腫瘍合併妊娠、産後出血などとなります。

●診療体制と実績

当センターは令和元年よりMFICU6床を新設し、ハイリスクな母体搬送を積極的に受け入れており、年間分娩数は令和3年度で770件と年々増加傾向です。新生児入院数も年間415件と屈指の入院数を誇っており、特に他院からの新生児搬送受入数が114件となっております。新生児搬送においても、なるべく搬送元施設の負担を軽減するため、当院医師が同伴の下でのお迎え搬送を行うことを心がけており、令和3年度も67件のお迎え搬送を行いました。1500g未満の早産低出生体重時の実績も年間約25例程度で推移しており、最先端の診療知識および技術をアップデートすることにより、その生命および神経学的予後も年々改善が得られております。その他、小児外科医、口腔外科医、眼科医、耳鼻科医、形成外科医などによる包括的な医療が可能であり、重度の新生児仮死症例に対する脳低体温療法などの実績も豊富となっております。今後も地域の周産期施設から信頼を得られるような医療を提供したいと考えております。なお、令和3年度の産科病棟の延べ入院患者数は7,446名（新入院患者数970名）、MFICUの延べ入院患者数は1,666名（新入院患者数217名）、NICUの延べ入院患者数は4,392名（新入院患者数442名）、GCUの延べ入院患者数は4,410名（新入院患者数432名）でした。